

2018年6月15日

三田市長 森 哲男 様

西宮北部の医療を考える会

三田市民病院の継続的な経営に関する審議会論議についての意見書

私たちは西宮市北部（塩瀬地域・山口地域）で、三田市民病院と済生会兵庫県病院の存続・充実を求めて活動している住民団体です。

去る5月30日、三田市民病院の継続的経営に関する第2回審議会(略「審議会」)が開催されました。そこでの論議は、私たちにとっても関係するものであり、「審議会」の議論についての見解を表明するものです。

「審議会」では、医療ニーズや三田市民病院が果たしている役割については全く議論もされず、もっぱら市民病院の経営状況の議論に終始しました。三田市民病院は断らない医療をモットーに、患者も増え病床利用率も向上して2017年度は収益的収支が黒字になり、今後も黒字になることを認めながら、入院単価の高い患者を集めて収益性をもっと高めるべきとの議論も行われました。

市民病院でありながら、入院単価の高い「もうかる患者」を選別すべきというのです。これでは、一般市民は排除されてしまう可能性があります。

さらに人件費の低い研修医を集めて、効率的に収益をあげるために大規模な病院に統合再編するとともに、人件費比率を思い切って下げるために民営化を検討すべきとの議論が展開されました。「大規模な病院に統合再編」ともなれば、済生会兵庫県病院との統合再編になるのではないかと危惧されます。

平成28年3月に発表された「西宮市保健医療計画」によると、西宮市北部地域（塩瀬地域・山口地域）には、南部に比して医療機関数が少なく、特に病院については近接する市外への利用が多い状況であると明記されています。

兵庫県も、「兵庫県保健医療計画」で、西宮北部地域については隣接する他地域との連携が必要としています。

西宮市北部住民にとって三田市民病院と済生会兵庫県病院は「地域医療の宝」です。私たちの願いを受け止め、三田市民の声も十分反映されるような審議会論議を強く願うものです。